

# ISO/IEC/JIS Plastics

## 事務局便り 2015 年 6 月

### 平成26年度規格部会報告

規格部会（ISO/TC61、ISO/TC138 及び電気材料安全関係）は、日本工業標準調査会（JISC）標準部会の国際標準化戦略に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。

ここでは、平成 26 年度の活動実績および平成 27 年度の活動計画を紹介する。

#### 1. 国際幹事国引受け

現在日本は TC61（プラスチック）では SC：3 件、及び TC138（（プラスチック管，継手およびバルブ類）では TC：1 件と SC：1 件の 2 件、TC61 と TC138 の合計 5 件の幹事国となっており、日本プラスチック工業連盟はその国内審議団体を務めている。現体制で、今後もこれをひき続き維持してゆく。

現状では、更に幹事国を獲得することは、現体制では困難であるが、長期的観点から、コンビナ一人材の育成をはかり体制固めを行っていく。

#### 2. 国際幹事国活動

TC61 では、TC61/SC11（プラスチック製品）、TC61/SC12（熱硬化性樹脂）、TC61/SC13（複合材料及び強化用繊維）、TC138 では、TC138 と合わせて、TC138/SC8（平成 25 年度に TC138 直下の WG12 を SC に昇格させ日本が幹事国となった）（配管更生）の国際幹事として、規格開発プロジェクトの円滑な推進を進める。

平成 27 年度は、ISO/TC61 国際会議はインド・デリー で、10 月 5 日から 10 月 9 日の 5 日間開催が予定され、ISO/TC138 国際会議は、ドイツ・ベルリン（10 月頃 日程未定）で開催が予定されている。ここで、日本が幹事国を務める TC61/SC11、SC12、SC13 及び TC138、TC138/SC8 の会議の円滑な開催・運営を図る。

#### 3. 国際標準活動

平成 26 年度の活動指標となる定期見直しを除く審議件数は、TC61 で 77 件（前年度 76 件）、TC138 は 42 件（前年度 46 件）であった。各 TC の活動状況は前年度並みであるが、その審議案件の対象となる TC61 の規格開発プロジェクト 107 件の内、30 件が日本発の国際提案で約 3 割を占めることから、TC61 の活動において日本の価値の高さがうかがえる。日本提案の中でも、日本が幹事国をとる SC11 では、バリア材の水分透過度試験法に関する標準化 3 件、異種材料複合体特性評価試験法に関する特性評価試験法に関する標準化 4 件は成長が期待される産業分野だけに注目される。また、平成 26 年度の新規日本提案では、SC5（物理・化学的性質）の最新の分析技術の規格化 2 件は、新たな機能製品開発促進が期待される。平成 27 年度は、この活発な活動を維持する。

#### 4. 国際標準開発活動

平成 26 年度は、下記の 5 件の国際標準開発テーマに取り組んだ。

- ①強化繊維・複合材料標準化開発
- ②酸素指数試験方法
- ④新規共同開発(異種材料複合体)
- ④複雑系高性能プラスチックの試験方法
- ⑤炭素繊維強化プラスチックの試験方法

上記案件は、いずれも平成 27 年度継続案件として取り組む。

平成 27 年度の新規標準開発テーマとしては下記の 3 件に取り組む。

- ①耐圧ポリエチレン管
- ②封止材水蒸気バリア性評価
- ③FT-IR によるエポキシ樹脂の硬化度の測定法

#### 5. JIS 原案作成活動

平成 26 年度原案作成は次のとおりであった。

A 期 (H26/4~H27/3) : 3 件 (制定 1 件、改正 2 件) の JIS 原案を作成した。

B 期 (H26/8~H27/7) : 9 件 (制定 1 件、改正 8 件) の JIS 原案を作成中である。

C 期 (H26/12~H27/11) : 応募案件なし。

平成 27 年度は以下のとおりである。

A 期 (H27/4~H28/3) : 3 件 (制定 3 件、改正なし) の JIS 原案を作成中である。

B 期 (H27/8~H28/7) : 応募案件なし

C 期 (H27/12~H28/11) : 7 月に応募申請を予定。

#### 6. 電気材料安全・規格関係

IEC/TC89 国際会議や UL の STP への委員派遣などにより、電気製品の安全規格及びプラスチック関連試験規格の制定並びに改訂の動向を把握すると共に、業界の意向反映を行ってきた。平成 27 年度も、国内団体と連携してゆく。

以上